

分科会名	C 地域と備え	コーディネーター: 木原孝久(住民流福祉総合研究所)	助言者: 鈴木昭二(静岡市大岩二丁目町内会) 葉袋奈美子(福井大学工学部講師)	事例報告者: 南部美智代(災害ボランティアネットワーク鈴鹿) 日向明世(福井県知的発達障害育成会常務理事) 三浦・杉浦(安城市花ノ木町内会)					
各分科会の概要	地域コミュニティのつながりが希薄になってしまった現在、その為に失われてしまった命も少なくはないのではないのでしょうか。災害時に最も頼れる組織は地域自治組織や小地域・近隣による見守り・助け合いのネットワークです。地域の人たちが要援護者に対してどのような対応をとる必要があるかを検討します。	共通問題状況	地域コミュニティの希薄 日常の地域での暮らしにくさや生活に関わる種々の問題の特性への理解不足と対応への戸惑い 車椅子・杖・内服薬の確保	検討内容	要援護者の方々には、平常時どのような生活をし、災害時にはどのような問題が発生しているのだろうか。日常的に要援護者の特性をつかんでいなければ対応できないことは明白である。地域では小地域単位で暮らすための工夫をする必要がある。では、誰と誰をつないでいくとコミュニティが強化されるのか。平常時からの人間関係・要援護者への対応を具体的に検討する				
対象者に特有の問題状況(重複障害の考慮も必要)									
高齢者	小児	外国人	身体障害		知的障害	精神障害	その他	課題	
視覚障害	聴覚障害	内部障害	肢体不自由						
<p>●一人暮らしの方でも近所付き合いをしない人、またできない人に対してどんな対策があるのか。 ●救助するにも本人の承諾があるのではないのか。 ●閉じこもりがちな方の発見はどうしたらよいのか。 ●個人情報保護の問題があり、実態把握が困難。 ●情報が届かない。 ●住んでいる状況がわからない(高齢者夫婦、独居老人、わたりきり・認知症老人) ●災害の内容、時間帯の違いで対応が大きく変わる。 ●情報が伝わりにくい。</p>	<p>●行政に依存する親が多い。行政はスーパーマンではない。 ●防災意識の欠如。子供は学校で避難訓練などを行っているが、親の方が欠如しているよう。 ●母親は地域コミュニティができていないが、父親はできていないのでは？</p>	<p>外国人の実態把握の方法。災害時の訓練。災害が起きた場合の問題。地域との人間関係をどうするのか？人権の問題。 ●住民の外国人に対するイメージ。生活習慣とか犯罪など。</p>	<p>知らない人が声をかけても行きにくい。どのレベルまでの視覚障害者を支援するのか？災害の種類で対応が異なる。家に残ったほうが安全ではと考える。 ●家族内で知られたくない人がいる。 ●情報を得ることができても移動が困難。</p>	<p>手話通訳士の養成や設置などの制度の問題。日常生活や隣り近所の付き合いなど日常的に健常者と会話していない。理解できるかが分からない。地域の方からの説明が全くなかった。情報が入らないから家に居つづけた。地震時などはファックスは使えない。このようなことで災害時の情報が入らないことがある。地域の行事に自分から参加しにくい。</p>	<p>障害の有無を周囲は知らない。 平常時からの移動困難状況に加え、災害時避難経路に障害物が多く避難できない。安全に避難できるか不安。避難路の確保の問題。障害者がどのように救助されたのかの情報がマスコミで報道されない。避難所に行く方法がない。 ●避難所のバリアフリーが進んでいない。 ●非難救出時に当事者が後回しになる不安。</p>	<p>災害時に適切な判断ができない。避難所に行けない。集団生活になじめない。知的障害者との連携がもてない。 ●近所づきあいに不安がある。 ●日常生活での関わりがないため、知ることができない。知らなければ備えることができない。 ●パニックを起こした時の対応。 ●学校を避難所に開放してほしいと願っていたが駄目だった。</p>	<p>どのように精神障害者と付き合っていくか？障害者との付き合い方の問題。周囲が存在をどこまで知っているか？家族が隠していないか？障害の程度のとらえ方。理解の仕方。</p>	<p>民生委員に要援護者の安否確認をしていただいたが、被災されていたりしていっぱいだった。同じように区長さんをお願いしたが、平常時のような情報収集伝達はできなかった。近所づきあいが難しい。</p>	
<p>●見回り 地域の民生員が訪問する。顔見知りの人による見回り活動。 ●高齢者グループづくり ●高齢者の活用 高齢者の資格(医者、看護師など)。高齢者による自主防災組織。高齢者の出した情報(知られた情報)は出すようにする。高齢者ができることはやるようにする。高齢者もボランティア組織に入る。 ●高齢者への学習 高齢者を対象とした防災研修。避難所での配慮 避難所での間仕切り。 ●防災台帳の作成 この台帳では、嫌な人は嫌なところは書かなくていいとしている。資格がある人は救護班や医療班に入るなど、分類している。非登録者の情報は、登録している人から聞くこと(聞き込み)と張り込みで対策をとる。 ●世代間の交流</p>	<p>●地域コミュニティ 地域のコミュニティの活性化。地域の防災組織をつくる。 ●行政からの情報提供 行政は防災組織をつくるきっかけづくりができるのでは？ ●親から子へまず親が防災意識を変えて子供に伝える。避難ルートを教える。 ●防災ゲーム ●防災ゲームで学習。 ●溜まる場所の活用 住民の「溜まる場所」がある。そこを特定し情報を届けると広まるのではないのか？ ●小さなことから始める 地域内で挨拶をして、小さなことから始めることで、防災意識まで高める。 ●家族そろって地域ぐるみで楽しく避難訓練。</p>	<p>●普段の付き合いから外国人との接点を大事にしていく。普段の付き合いを使う。 ●見回り 地域の民生員が訪問する。地域で把握。個人的な繋がり。 ●魅力的な訓練 魅力的な訓練にすれば外国人の方も参加してくれるのでは？ ●災害時の外国語の字幕放送 ●外国人の活用 外国人同士の横の繋がりをボランティアに生かせないか？外国人でも資格を持っている方がいる。 ●企業と地域の繋がりが 外国人がいる企業と町内会との繋がりを保持。 ●パンフレット、表示板による伝達。 ●生活習慣、食文化に合わせた対応。 ●外国人登録制度の活用等 ●公共放送による外国語の情報提供</p>	<p>●日常から 日常での付き合い。日ごろから防災訓練する。地域の人と交わる。参加する。 ●自宅内の安全場所 自宅で安全な場所を確保する。 ●専門職の人の活用 専門職の人の活動で支援できないか？ ●災害時の支援 日ごろ接触がある人が支援する。 ●視覚障害者への学習 災害時の対応をしっかりと学ぶ。災害の知識を持つ。 ●自分のことは自分で守る。</p>	<p>●地域内で手話講座 みんなが簡単な手話ができるコミュニケーションができる。 ●聴覚障害者の活用 聴覚障害者も地域のイベント等に誘う。 ●災害情報の提供方法 緊急なニュース(地域の災害情報)は光りなどの特別な方法で提供する。 ●聴覚障害者の識別法 聴覚障害だと分かるような識別サイン(服装、腕章など)を身に付ける。 ●災害時の支援 地域の人々が家に来てくれて筆談で情報提供。 ●社協が核になり、メールで情報伝達。</p>	<p>●若い人の活用 若い人が参加して肢体不自由な方を支援できるように。 ●救助情報の提供 肢体不自由障害者への救助方法の情報提供。 ●当事者の社会参加の呼びかけ。 ●避難所としての学校機能の充実。 ●当事者の地域の避難訓練の参加。 ●当事者を対象とした防災教室の開催。 ●何よりも日ごろの近所づきあい。</p>	<p>●日常から 日ごろから知り合いになっておく。 ●民生員の会議に参加 民生員が参加する場(会議など)に参加する。 ●災害時要求情報 災害時に知りたいことをあらかじめ言ってもらう。その情報を災害時に伝える。 ●イベント イベントで知り合う機会を持ってないか。 ●支援者を見つける 支援してくれる人を見つける。 ●地域への参加 地域の会に入ってもらう。そこで理解してもらう。 ●災害里親制度 災害時に隣り(近所)に避難する。避難所に避難するだけが避難ではない。 ●学校や施設を避難所にしてほしいと粘り強く声をあげていく。</p>	<p>●向こう三軒両隣</p>	<p>自主防災組織が他の自主防災組織と協定を結ぶ。ハザードマップで自分の住んでいる地域の特性を知る。要職が名誉職にならない。あいさつなどの小さいことから取り組む。日頃、接触がある人が支援する。防災グッズを自治会で備えておく。</p>	
<p>●区長、民生委員等の協力でマップを作成する。 ●近所の人や仲の良い人、有資格者で担当を決める。 ●有資格者(介護)を育成する。 ●具体的災害を想定して防災訓練を行う。</p>									
<p>個人情報の管理の問題(誰が管理するのか？プライバシーの問題)。町内の集会所が避難所にできないか？「ほっといて」と言う人への対策。登録したくない人。個人情報保護法と関係でマップづくりが難しい。有資格者育成のための予算はどうするか。</p>	<p>防災意識をどう高めるか？ 情報をどのように届けるのか？ 強制的な避難訓練は意味があるのか。</p>	<p>外国人と日本人の同時の防災訓練。災害の想像がつかない外国人がいる(地震国であることを知らない外国人が多い)。</p>	<p>●ネットワークをどう作っていくか。 ●双方に障害に対する偏見がある。</p>	<p>誘ったら参加するかという問題(参加しない人もいる)。</p>	<p>障害者がどのように救助されたか報道されない。1人に対して複数のボランティアが必要。</p>	<p>引きこもりの知的障害者はどうするか？他の人が障害の程度を分らない。どのように地域に溶け込めるようにするか？</p>	<p>プライバシーの問題。どのように精神障害者を捕らえるか？人付き合いが煩わしくて町内会に入らない人もいる。</p>		